

連載

## ビジネス的発想からの提言(7)

「CHANGE」  
Yes. We. Can時代は今、  
強力な  
リーダーシップを  
求めている

イエス・キリスト教会・  
家の教会伝道師  
エリヤ会会員  
元カネボウ薬品社長  
三谷 康人

十月三日・四日ウイロークリック主催の「グローバルリーダーシップ・サミット」が、日本では初めて開催され定員三五〇名オーバー。今迄参加したどんなセミナーよりもインパクトがあり、大きな意味があった。どの講演も衝撃的な学びでした。等の大きな反響があった。今回は元ビュレロ、ハワードCEOカーリー・ウォーリーナ女史の話「私はこうして受付からCEOにならした」。ハワイのウエイン・コテイロ師「死んでも走り続けるリーダー」の話等。最後にビル・ハイベルズ師は、南アフリカの黒人解放運動のリーダー・ネルソンマンデラ氏の話。彼は裁判にかけられ死刑覚悟しての最後の言葉「その事に私の生涯を捧げます。その為なら死をもいとわない覚悟です」であった。今、自分達はこれだけの信念を持つているか。そして教会はこの世の希望になっているか。自己中心的な心で行動していないか。結びで「教会は世界の希望」

あなたは、キリストの教会を建て上げる為に自分の全てを注ぎ尽くす覚悟がありますか？」と語りかけ、大きな感動とチャレンジをあたえた。

世界的不況の到来は、  
閉塞感を強めよう。然し、  
そこに「チャンス」がある

アメリカの大統領選挙で、アメリカ社会の変革「チェンジ」を訴えた黒人のオバマ氏が大差で当選した。国民は彼に閉塞感打破の希望と夢を託した。然し、今やリーマンブラザーズの倒産から、世界の金融市場のバブルが崩壊し、一〇〇年に一度と言われる大不況が世界同時に起きた。株は大暴落し、世界の自動車会社GMは一〇月度の新車売上が四五%減(トヨタ三%減)と急落し存続の危機にある。IMFは来年度は日・米・欧が二斉にマイナス成長になると予測した。回復には可成りの期間がかかる事であろう。

一方日本はこれから本格的な少子高齢化の時代、数年後から労働人口の大幅減少、高齢者の増で、医療、看護費用の急増、年金制度の危機等から大変な時代を迎える。そこに今回の世界不況が来た。失業者増大、賃金給与減少等で非常に厳しい事態になる。然し、視点を変わると大きな「チャンス」だ。

日本のキリスト教界について考えると、今迄の様な内向き姿勢の延長線上には明るい未来は無い。現状の俣の教会では高齢化が一段と進み、献金は減少、教勢はジリ貧化し、閉塞感は一層と強まるのではないだろうか。(企業も同じ)

ピンチを「チャンス」に変える  
「顧客(信徒)創造」の  
視点を持とう

前回のバブル崩壊の不況時代に、絶えず、売り上げと利益を伸ばし続けた企業があった。それは宅急便を始めたヤマト運輸、コンビニを始めたセブンイレブン、安全を売ったセコムの三社。この三社が成功したのは、いずれも潜在需要を探して、その市場開拓方法を探索し、今の新しい販売方式を確立したからだ。不況の時に革新の「チャンス」が見つかる。

マーケティングと革新で潜在需要を掘り起す考え方(これをP・ドロッカーは「顧客創造」という)をキリスト教界に「信徒創造」として適用すれば、

今の閉塞感はなくなり、将来に明るい希望が持てる様になる事だろう。その為には、今迄の様な「内」を向いた教会の姿勢を、未信者九九%の「外」への宣教に向きを変える事が必要。多くの教会では、伝道は牧師がするもの、信徒は日曜礼拝に出席し献金、奉仕で教会に仕えるものと思われてきた。これを、伝道は信徒がするもの(万民祭司)、牧師はその為に信徒の霊性を高め、伝道出来る様に弟子訓練をする役割を持つものと、意識行動をチェンジする事。

今こそ強いリーダーシップに  
より、「外」向きの伝道に  
「変革」する時

変革の為には、まずリーダーは神の前に出て、クリスチャンへのミッション(使命)を聞き、そして聖霊の力に満たされる事から始まる。そのミッションの使命感が強い程、強力なリーダーシップとなる。そこからビジョンが出来、目標が決まり、教会が進むべき方向(伝道)が決まって来る。そして家族から地域社会へと、信徒による愛の伝道が広がる時、日本のキリスト教界に希望が見えて来る。その後、教会はその地域社会でなくてはならないものに、即ち、愛と希望に輝ける教会になるだろう。日本社会の危機の中で、教会を「内」向きから「外」向きに「変革する強いリーダーシップ」が今切に求められている。